



「揃うということ」



26日(土)に小田原三の丸ホールで「小田原・足柄下地区中学校音楽会」が実施されました。13校の中学校が参加して、合唱や吹奏楽の演奏が行われました。城山中学校からは3年生の有志が、テスト期間前ですが約40名の生徒が参加しました。「時を超えて」「あなたへ」の2曲を歌いました。指揮は小川宇波さん・朝倉琉晴さん、伴奏は高久綾美さんが行いました。練習時間は、1週間と非常に短い時間でしたが、昼休みを利用してよく練習をしたと思います。もう少し取り組む時間があつたらさらに完成度は高まったと思います。お疲れさまでした。

どの学校も、学校の指定した標準服でステージに上がっていました。ワイシャツの長袖半そでも揃えて統一感をもってステージにあがっていました。橘中学校は標準服の指定がなく私服の学校です。ステージにそれぞれの生徒が当然異なる服装で並びました。チェックの服を着ている人もいれば、無地の服を着ている生徒もいます。統一感はなく、それぞれの個性がステージに広がった感じでした。しかし、まったく違和感はなくおかしな感じもありませんでした。どの生徒も、ステージに上がることを考えた服装をしてきているので、遊び着を着ている生徒はいませんでした。逆に違和感というよりも一人ひとりの個性が調和していて素敵な感じがしました。ステージに上がっている生徒の服装は一人ひとり異なっていますが、ステージに上がる気持ち、ステージで合唱する姿勢が全員揃っているのとまりが伝わってきて、ばらばらの服装も違和感がありませんでした。逆に、制服で統一している学校でも、ワイシャツの第一ボタンを外している生徒がいたりすると同じ服を着ているのに、ステージに上がる姿勢にばらつきがあるなど感じて違和感を感じました。揃うということは、服装を同じにすることでなく、心を同じ気持ちにすることなんだと橘中学校の生徒のステージの発表を見て感じました。